各企業等の社会貢献活動

i-Con・建設DX現場見学会

建設業の魅力知って

平田建設　帯工生対象に



【帯広発】㈱平田建設（十勝、長谷川雅毅社長）は20日、幕別町の町民会館などで日立建機日本㈱の協力のもと帯広工業高校の生徒を対象にしたi-Construction・建設DX現場見学会を開催した＝写真＝。環境土木科2年生39人が参加。同社や建設業の魅力に関する説明、バックホーシミュレーターやICT建機、杭ナビ、UAV等の体験を通して今後の進路選択の参考にした。

現場見学会は、2019年度から開催しているもの。コロナ過での中止を除き7回目となっている。

町民会館での開催式で長谷川社長は、建設業について「社会インフラのみならず災害時に地域を守るなど地域に密着した業種。地域の安全と安心につながることに大きな誇りと魅力を感じている」と強調。数年後に共に働くことに期待を寄せた。

座学では業務部の荻野喜貴部長が会社概要、帯広開建帯広農業事務所第3工事課第1建設係の舩戸直樹係員が開発局の農業事業、現場代理人の山岸直幸氏が同社が施工する帯広開建発注の「新川二期地区第1集水路下流工区工事」をそれぞれ説明。うち山岸氏は、現場の施工内容から建設DXを活用した取組を紹介した。

また、日立建機日本が重機のマシンコントロール機能やバッテリー式の電動ショベルの特徴などを説明した。

続いて1年目から4年目の若手社員4人による座談会を実施。「現場見学を通してこの業界はやりがいがあっていいなと思った」「測量機器の使い方やバックホーの操縦体験などが印象に残っている」などこの仕事を決めた理由やきっかけ、早起き習慣や整理整頓、アルバイト経験など社会で働くためのアドバイスをした。生徒は、これまで働いた現場や資格取得のことなどについて質問。バックホーシミュレーターやVR体験にも取り組んだ。

このあと、同現場で現場見学や体験学習を実施。4班に分かれICT建機や杭ナビ、UAV等を体験し重機操作をシミュレーションやVRによる建設現場での被災体験などを実施した。

その後、現場に移動。今後普及が見込まれる電動のバックホーが現場に運び込まれていたほか、一定の動作が制御されたICT建機があり、生徒らが試乗して操作感を味わった。

生徒の亀井優希さんは「振動がすごかったが、操作は簡単に感じた」と話し、マシンガイダンスの効果を体感していた。

帯広工高2年招き ICT建機見学会

平田建設



【帯広】平田建設（本社・士幌）は20日、帯広開建から受注している新川二期地区第1集水路下流工区の現場に帯広工高環境土木科2年生39人を招き、ICT建機などの見学会を開いた。ICT建機への試乗などを通じ、最新の職場環境を体感してもらった＝写真。

日立建機日本（本社・埼玉県草加市）の協力で開催。最初に幕別町内の町民会館で座学を開き、